

【様式】

平成31年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 相可高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の夢をかなえる学校</li> <li>・地域と共に歩む学校</li> <li>・教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校</li> </ul>
(2)	育みたい 児童生徒像	夢の実現を目指して自律的にかつ誠実に学び続けることができる生徒 変化や困難に対して柔軟にかつたくましく対応することができる力を有する生徒
	ありたい 教職員像	生徒の学力向上に努めるとともに生徒の人権・健康・安全を守ることができる教職員 同僚性を発揮するとともに互いに支えあうことができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を 提供する相手と そこからの要 求・期待	生徒、保護者、地域社会 ○学習指導・生徒指導・進路指導、部活動指導の充実 ○地域活性化への貢献 ○卓越した取組とその成果の継承	
(2) 連携する相手と 連携するうえでの 要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	生徒：わかる授業、学力の定着・向上、部活動の充実、希望進路の実現、安心して学べる環境 保護者：学習指導・生徒指導・進路指導の充実 地域社会：地域活性化への貢献 関係企業・団体等：話題性によるイメージの向上	保護者：学校教育への理解・協力・支援、家庭での指導 地域社会・企業等：教育活動への理解・協力・支援、学習成果を発表・活用する機会の提供
(3) 前年度の学校 関係者評価等	○普通科の学級減に伴い、進学体制等の再構築を図りたい。 ○無理して市内の進学校に進学させるくらいなら相可の普通科へと思うのだが、保護者を説得するだけの進路実績が欲しい。 ○家庭での勉強時間が少ないのには驚いた。宿題を出すなど、勉強させる手立てが必要である。相可の生徒はまじめなので、やらせたらもっと伸びるのではないか。 ○専門学科に比べるとどうしても普通科の特色が見えにくい。将来的にじり貧になっていかぬよう、危機感をもって普通科の活性化（特色化や授業の充実等）に努めてもらいたい。 ○部活動ガイドラインについて、部活動休養日等、中学校ではほぼ守られている。このような状況をふまえて高校では指導してもらう必要がある。 ○先生たちが生き生きと働ける、風通しの良い明るい職場づくりをお願いしたい。	
(4) 現状と課 題	教育 活動	○普通科について、希望進路の90%が進学となる中で、より一層効果的で適切な教育課程や指導の在り方が課題となっています。 ○「主体的・対話的で深い学び」については、昨年度から「探究 起・承・転・結」という名称で実施しましたが、引き続き検証を行い、定着を図っていく必要があります。 ○グローバル化や地方創生等に対応できる学力を持った生徒の育成が必要です。 ○生徒の学力をより一層確実に定着・伸張させるために自宅学習や補習の在り方について研究し、実施する必要があります。（一昨年度からの継続課題） ○学校全体に落ち着いてともに学ぶ雰囲気があり、自他を大切にしている心が育まれています。さらに一層工夫して自尊感情の醸成や役立ち感を実感できる教育の充実に取り組む必要があります。

学校 運営等	<p>○勤務時間を超えて分掌業務、部活動指導業務等に従事するなど恒常的な過重労働に陥っている職員や、放課後の補習・会議等で多忙感を感じている職員がいます。</p> <p>○授業・分掌業務・部活動指導等について、協力・協同して取り組む体制を確立するとともに質を重視した見直しを行い、教職員がライフワークバランスを図りつつ、やりがいを実感できる学校づくりを進める必要があります。</p>
-----------	---

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○「生徒の夢をかなえる学校」に関して 「主体的・対話的で深い学び」の実施により、生徒がこれからの社会で必要となる学力や能力を確実に身に付け、地域社会やグローバル社会において活躍しようという意欲を持ちつつ希望進路の実現を果たしています。</p> <p>○「地域と共に歩む学校」に関して 各学科がそれぞれあるいは相互に連携を図りながら、本校ならではの特色ある取組をグローバルな視点を持って行い、地域の活性化に貢献しています。</p>
学校運営等	<p>○「皆がやりがいを実感する学校」に関して 授業・分掌業務・部活動指導等について、同僚性を発揮するとともに、協力・協同して取り組む体制が確立するなど、教育活動や学校運営を継続的に改善するための仕組みが機能し、活気のある明るい組織風土が醸成され、多くの生徒・保護者・職員が学校に満足しています。</p>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導・ キャリア教育 の充実	<p>○大学入試新制度や企業や社会が求める人材像等について情報収集と情報共有に努めるとともに、指導に反映し、生徒の進路を保障します。</p> <p>○「命を大切にする」「政治的教養を育む」教育については、学校教育活動全体で取り組むことの意義を再確認し、全校体制で取り組みます。(生徒会による朝のあいさつ運動、LHRや集会等を活用した呼びかけや講演会、生徒の興味・関心・意欲を引き出す独自の取組等を通じて自尊感情や役立ち感の醸成に努め、自信を持って安心して学べる学校作りを進めます。また、人権教育や道徳教育についてもテーマや方法を工夫して実施し、自分や仲間及び他人や弱者を大切することができる豊かな人間性を育む取組を実施します。)</p> <p>○2年目を迎える探究学習については、</p>	<p>○大学入試新制度について、国等からの情報をデスクネットや職員会議で共有するとともに、ポートフォリオについては外部講師による研修会を行いました。〔目標達成状況○〕</p> <p>○「命を大切にする」教育については、人権LHRにおける自尊感情や自己肯定感を高める取組、各教科での学習、生徒への普段の声かけや寄り添い、集会での生徒への問題提起等、学校教育活動全体を通じて実施しており、学校全体の雰囲気は落ち着いています。「政治的教養を育む教育」については、現代社会等の授業で実施しました。また、3学年では多気町選挙管理委員会と連携して学習に取り組みました。〔目標達成状況○〕</p> <p>○探究学習については試行錯誤しながらも、昨年度作り上げた枠組みに基づき</p>	

	<p>課題を整理しながら改善し、より一層充実した取組となるよう取り組みます。</p> <p>○各学科の特色を生かした資格取得への取組により一層力を入れるとともに、引き続き昼学（毎週水曜日の昼休み後の学習）等を実施し、語彙力、表現力、思考力等の育成を図ります。</p> <p>○DCTや特別活動の時間を活用し、キャリア教育の充実を図るとともに、自ら実践したことを「学びの履歴」として記録するなど、主体的に取り組む態度を育成します。</p> <p>○3年間のSPH事業の最終年にあたり、「世界で活躍する食のプロフェッショナル」を育てるための取組をさらに充実させるとともに、3年指定の後に本校の持続可能な取組として何を残せるかなど、その成果をまとめ、全国に普及できる汎用性のある提案をしていきます。</p> <p><b>【活動指標】</b> 探究学習の実施、各学科の特色を生かしたキャリア教育の実施、報告書の完成、研究発表大会の開催等によるSPH事業の成果の普及</p> <p><b>【成果指標】</b> 学習指導、キャリア教育、探究学習に満足と答えた生徒の割合90%以上、SPH事業に係る生徒・教員向けアンケート及び外部機関向けアンケートでの評価のアップ</p>	<p>実施することができました。</p> <p>〔目標達成状況○〕</p> <p>○測量士5名合格やアグリマイスター顕彰においてプラチナ、さらにその中で優秀者に認定されるなど、素晴らしい成果を上げることができました。次年度、3年目の取組となる昼学については成果や課題等について総括する必要があります。〔目標達成状況○〕</p> <p>○DCTは引き続き改善に取り組む必要があります。「学びの履歴」については、ポートフォリオも含め、各学科で整理するとともに、学校としてのシステムを確立する必要があります。</p> <p>〔目標達成状況○〕</p> <p>○教科横断、学科横断の研究により、専門学科における英語の指導計画の作成や、生産経済科と連携して商品開発を実現することができました。また、SPH研究発表会等を通してその成果や課題を全国に発信することができました。今後は食物調理科のグローバルな取組を引き続き他学科に広げていくとともに、研究を通して明らかになった課題を改善しながら、構築した学習プログラムにそって教育実践に取り組んでいく必要があります。</p> <p>〔目標達成状況◎〕</p>	
--	---	--	--

### 改善課題

- 生徒の多様な進路希望や今後進む大学入試制度改革に対応するため、一層充実した教科指導及び進路指導が必要になります。そのための具体的な内容や方法、手立てについて、引き続き検討を続ける必要があります。また、生徒募集に関わって、より一層の進学実績の向上を図る必要があります。
- 「命を大切に」「政治的教養を育む」教育については、知識の学習とともに、共同体意識や協働意識、さらには自尊感情や自己肯定感の醸成が重要であり、工夫しながらさらに一層多くの機会を通じて実施する必要があります。
- 探究学習については今年度の反省をふまえて改善し、取組の蓄積を図っていく必要があります。また、効果的な研修にも取り組んでいく必要があります。
- いじめやSNS上のトラブル等について、教職員の意識を高めるとともに、生徒指導や情報共有の在り方、研修の充実等、改善を図っていく必要があります。

### (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。  
 【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力向上の取組	<p>○「主体的・対話的で深い学び」について、各教科・科目での取組の充実を図るとともに、先進校の事例に学ぶなど校内での研修の一層の充実を図ります。</p> <p>【活動指標】各教科での「主体的・対話的で深い学び」の実施、研修の実施                      【成果指標】各教科での「主体的・対話的で深い学び」の実施 100%、教職員研修の実施 1 回</p>	<p>○「主体的・対話的で深い学び」について、積極的に研修に参加する教員は一部にとどまっている現状です。校内研修を企画し、互いに高め合っていくような取組が必要です。</p> <p>〔目標達成状況△〕</p>	
少子化を見据えた活性化策	<p>○相可高校ならではの特色ある学習活動を、地域社会と連携して実施し、地域社会に貢献します。(地域から信頼され必要とされる学校作りを進めます。)</p> <p>○引き続き中学 2 年生を対象とした学校説明会を実施するなど、学校説明会の一層の充実を図り、募集定員を充足させます。</p> <p>○新たな科目の開設等、普通科の魅力化を図るとともに、教職員の定数減をふまえ、校内組織等のスクラップアンドビルドを推進します。</p> <p>【活動指標】地域と連携して実施する相可高校独自の取組、学校説明会の実施、新科目等の検討                      【成果指標】地域と連携して各学科で実施する相可高校独自の取組 100%、募集定員の充足、新科目の開設、校内組織等の再構築</p>	<p>○普通科については、厳しい募集状況や学級数減をふまえ、他の普通科高校との差別化を図りながら、教育課程等について検討する必要があります。</p> <p>〔目標達成状況△〕</p> <p>○生産経済科では、地元企業と連携した様々な取組を行い、バイオマス研究については農業クラブ全国大会に出場しました。柿の栽培や松阪牛の肥育を通して GAP 認証にも取り組みました。環境創造科については、本年度も測量士に 5 名が合格し、進路についても公務員の延べ合格者が 30 名となるなど素晴らしい成果を出しています。食物調理科では、SPH 事業を通して多くの成果を上げ、将来の食のプロフェッショナルとして活躍できる人材育成が行われています。〔目標達成状況◎〕</p>	
働きやすい職場環境づくり	<p>○教育活動に対してすべての教職員が法令遵守のもとで、協力・協同して取り組むことができるよう意識の変革を図ります。特に、部活動休養日と定時退校日について具体的な数値目標を設定し、総勤務時間の縮減に取り組みます。</p> <p>【活動指標】                      週 1 回の部活動休養日                      月 2 回の定時退校日                      放課後に開催され 60 分以内に終了する会議の割合を 90%                      【成果指標】                      週 1 回の部活動休養日の実施率 80%                      月 2 回の定時退校日の実施率 100%                      時間外労働時間 1 時間/月削減                      休暇取得日数 1 日/年増加                      月 80 時間を超える時間外労働者を延べ</p>	<p>○通常の会議については、左記の指標をほぼ達成することができましたが、臨時の会議については大幅に時間が延びる会議もかなりありました。時間外労働については、特定の教員が課題となっています。本人の若い頃からの働き方や性格もあり、改善のための有効な手立てをみつけることは難しいですが、粘り強く働きかけていきたいと考えています。定時退校日と部活動休養日についてはほぼ定着しました。部活動のあり方については、活動時間等、教職員・生徒・保護者で共通理解を図りながら、引き続き改善していく必要があります。</p> <p>〔目標達成状況△〕</p>	

	10人削減		
<b>改善課題</b>			
<p>○普通科の学級数減に伴い、5クラス規模（普通科2クラス）の学校としての在り方について引き続き慎重に検討していく必要があります。</p> <p>○グローバル教育については、食物調理科が中心となりSPH事業で実施しており、さらに他学科へ広める必要があります。あわせて、交流等の在り方についても経験の蓄積と一層の工夫が必要です。</p> <p>○相可ブランドはかなり定着していると思われませんが、募集に結びつかないところが課題です。希望の段階では本校への進学希望者が一定数いるにもかかわらず、実際の受験時には集まらないという現象が発生しています。全教職員が危機感をもって教育活動に取り組む必要があります。</p> <p>○定時退校や部活休養日については、ほぼ達成されていますが一部において課題となっており、改善が必要です。教員については、個別のヒアリングや指導をとおして粘り強く理解を求め、意識改革を図っていく必要があります。</p> <p>○指導要領の改訂にむけて、教科、総合的な探究の時間、特別活動について、改訂の意義や目的を踏まえつつ、本校生徒の実態や課題に応じた指導となるよう、一層の情報収集と研修が必要です。</p> <p>○部活動の活動時間や指導方法等については、現状の課題を洗い出し、より一層適切な指導となるよう、全教員の共通理解を図るとともに、部活動ガイドラインを徹底していく必要があります。</p>			

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>○進学実績の向上のためには、効果的なカリキュラムの構築も必要だが、一番重要なのは教員の授業力向上である。生徒アンケートの実施等について検討されたい。</p> <p>○昨年度より自宅学習の改善があまり見られない。今の生徒は宿題等与えれば真面目にやるのではないかと。工夫をお願いしたい。また、現状で満足するのではなく、一つ上の高みを目指す指導をお願いしたい。</p> <p>○生徒募集に関わっては、私学の専願や授業料完全無償化の影響で今後も厳しい状況が続くと思われる。松阪地区の公教育を維持していくためにも、関係者が課題をしっかりと共有するとともに、高進対（松阪市公立高校進学対策協議会）等から県教委への働きかけを今まで以上にしっかりと行っていく必要がある。</p> <p>○専門学科の生徒と比べ、普通科の生徒の目的意識は低いように思う。キャリア教育を充実させ、しっかりと自分の進路の道筋を考えられるようにしてやってほしい。</p> <p>○毎年の測量士の合格実績には感心する。ただ、公務員を目指すのであれば、経験上、土木施工管理技術者試験の方が将来的に役に立つと思う。</p> <p>○部活動については、部活動ガイドラインをふまえ、生徒や保護者の視点を大切にして全教職員が足並みをそろえて取り組んでいく必要がある。</p>
----------------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>○新しい大学入試の仕組みや企業が求める能力等の情報収集に努め、生徒の進路希望が実現できる指導体制の充実に努めます。</p> <p>○「命を大切にする」「政治的教養を育む」教育については、学校教育活動全体で取り組むことの意義を再確認し、全校体制で取り組みます。</p> <p>○探究学習については、研修等を実施し、これまでの課題を整理しながらより一層充実した取組となるよう取り組みます。</p>
---------------------	---

	<p>OSPH 事業において構築された教育内容、シラバス、実習計画等にそって教育実践をすすめるとともに、定期的に検証を行い、教育の改善充実に努めます。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>○グローバル教育については、今後、生産経済科、環境創造科においても外国の生徒と交流する機会を持てるように工夫します。</p> <p>○相可ブランドをより一層確実に知っていただくために、学校説明会や出前学校説明会等の充実を図るとともに、積極的な情報発信を行います。</p> <p>○国の働き方改革の動向をふまえ、定時退校や部活休養日については、個人へ働きかける回数やヒアリング・指導・助言の内容を工夫するなどしてより強く改善を進めます。</p> <p>○指導要領の改訂内容を含め、今後求められる教育については、情報収集に努めるとともに研修を深め、実施に向けての着実な準備を進めます。</p> <p>○部活動の活動時間や指導方法等については、現状の課題を洗い出し、より一層適切な指導となるよう全教員の共通理解を図るとともに、部活動ガイドラインの徹底を図ります。</p>